



そよかせ

令和7年9月11日

東京都立小金井特別支援学校

校長 村山 孝

担当 宮本 優衣

今年も記録的な暑さの夏休みでした。皆様はどのように過ごされましたか。長い休みを経て、2学期がスタートしました。2学期は授業日数も一番多く、様々な行事も予定されています。まだまだ厳しい残暑が続きますが、体調に気を付けながら授業や行事に向けての学習に取り組んでまいります。

今号の「そよかせ」では、夏休み期間中、本校で行った取り組みや活動についてお伝えします。



さくらんぼ教室 (7月28日)



年中・年長児を対象とした体験教室を3回に分けて実施しました。

さくらんぼ教室では、始まりの会、リトミック、手遊び、シーツブランコ、見る聞く活動等を本校の教員と一緒に体験します。保護者の皆様には廊下から見学していただきました。初めての場所に緊張が見られるお子さん、教員との関わり遊びを楽しむお子さんと様々でしたが、本校の環境や活動を知っていただく良い機会となりました。



支援機関見学会 (7月23日/7月25日)



本校教員が地域の関係機関と連携を図り、児童・生徒の地域での生活について理解を深めるため、小金井市にある、社会福祉法人雲柱社「賀川学園」と放課後等デイサービス「おもちゃ箱しんこがねい」を見学しました。就学前施設での活動の様子や学校以外の場での過ごし方を知ることで、児童・生徒の新たな一面を知ることができ、今後の取り組みにもつながります。

保護者や職員の方、他の関係機関の方と学校が、お子さんの支援について情報共有し、支援方法を相談する会議を実施することもできます。御相談がありましたら、担任又は特別支援教育コーディネーターまで御連絡ください。



理解充実事業研修会 (7月31日)

特別支援学校がセンター的機能を発揮し、地域の特別支援教育の充実と障害者理解の推進を図ることをねらいとして、地域の関係機関職員と本校教員向けに研修会を行いました。

講師として、東京学芸大学名誉教授・武蔵野千川福社会理事長 菅野 敦氏をお招きし、「知的障害のある児童・生徒の自立と社会参加を目指した教育の充実」をテーマにお話していただきました。学齢期のダウン症の児童・生徒の具体的な指導方法や支援の在り方について、丁寧に説明していただきました。幼児期・児童期において、大人の働き掛けを子供が受け止め、考え、応える、といったやり取りを積み重ねていくことの大切さについて、改めて学びました。



御相談は、電話 042-384-6881



特別支援教育コーディネーター (宮本・山下) までお気軽にお問合せください。